

令和 3 ・ 4 年度 三重県英語教育改善プラン推進事業

パフォーマンステスト研究・開発に係る実践事例集



令和 5 年 3 月

三重県教育委員会事務局
研修推進課・小中学校教育課

パフォーマンステスト研究・開発チーム

はじめに

新学習指導要領については、令和２年度から小学校で、また令和３年度から中学校で全面実施となり、令和４年度からは高等学校にて段階的に実施されております。英語教育実施状況調査におけるパフォーマンステストの実施回数の割合が各校種で改善が見られたことから、パフォーマンステスト研究・開発チームの取組が、一定の効果を示したと捉えられます。令和４年度は、令和３年度の成果を広めるとともに、実施回数だけでなく、特に、パフォーマンステストの質の向上を目指した取組を行うことによって、教員の意識改善や実践の質の向上につながられるよう、チームの取組を進めて参りました。

今回の事例集では、これまでパフォーマンステスト研究・開発チームにご参加頂いた先生方の実践とそれに対するチームアドバイザーの阿野先生の助言をまとめました。他校種の教員が集まり、真摯に感想を述べ合う中で発見できる新たな気づきも数多くありました。ご協力頂いた先生方、本当にありがとうございました。

本実践事例集を是非授業や研修会等で活用いただき、児童・生徒が積極的に英語でのコミュニケーションを図る力の育成を進めていただけますようお願いいたします。

令和５年３月
三重県教育委員会

< 目次 >

はじめに

I 三重県の先生方へのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

文教大学 国際学部 国際理解学科 教授 阿野 幸一

II 実践事例

令和4年度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

事例 1 （小学校）明和町立明星小学校の取組・・・・・・・・・・ 6

事例 2 （中学校）菰野町立菰野中学校の取組・・・・・・・・・・ 17

事例 3 （高等学校）三重県立川越高等学校の取組・・・・・・・・・・ 25

III 実践事例

令和3年度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

事例 1 （小学校）四日市市立泊山小学校・・・・・・・・・・ 33

事例 2 （中学校）松阪市立東部中学校・・・・・・・・・・ 47

三重県の先生方、こんにちは。2021年度と2022年度に、三重県のパフォーマンステスト研究・開発チームの研修に関わらせていただきました。小学校・中学校・高等学校のそれぞれの校種から先生方にご参加いただき、1年間にわたってそれぞれの先生方の指導と評価を見直し、パフォーマンステストの実施と活用についての実践的な研究をされてきました。

パフォーマンステストの実施については、4技能5領域別にCAN-DOリストによって各学校が児童・生徒の学習到達目標を定めていることから、筆記試験では学習到達度を測ることができない「話すこと[発表]」「話すこと[やり取り]」の評価のためにも必ず実施することになります。しかし、実施すること自体が目標ではなく、指導目標と授業での指導内容を踏まえた適切な内容と方法による実施が求められます。このための研究が、まさに本研究の目指すところと言えます。

年度のスタート段階では、それぞれの先生方が日頃実践されている外国語・英語の授業を振り返り、前年度までに実施してこられたパフォーマンステストについてのご報告と、当該年度でどのような指導と評価を行っていくかの計画を立てて研究がスタートしました。オンラインでの顔合わせから始まり、年間の指導と評価の計画立案や途中報告を行いながら研究を続け、実際に対面で集合して研究授業の形で実践に移され、研究協議を通して改善点などを抽出し、指導の改善に活かしておられます。年度末の成果報告会においては、先生方の取り組みをご報告されていますが、どの先生方も、ご自身の指導と評価が改善されたのはもちろんのこと、児童・生徒の学びの姿が変化していることをご報告されており、大きな成果を収めていると言えます。その成果については、この後の指導案などをご参照ください。

評価の基本的な方向性については、国立教育政策研究所から発行されている『学習評価の在り方ハンドブック』や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に「学習評価の基本的な考え方」として次の3点が挙げられています。

- ・教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ・児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

つまり、評価は成績を付けるためのものだけではなく、適切な評価を行えていれば、その結果を踏まえて次の指導に活かすことができます。児童・生徒にとっては、学習したことが適切に評価されればその学習を継続することができます。しかし、日頃の授業で伸ばしてきた英語力を測ることができない試験を通して評価された場合には、力を付けるはずの授業での取り組みではなく、点数を取るためだけの表面的な学習に向かわせてしまう危険性さえあるのです。指導改善に則さないような、これまでの慣例に従った評価方法が続けていることで、伸ばすことができるはずの生徒の力を伸ばす機会を奪ってしまうことになります。そのようなことにならないためにも、私たち英語教員がより適切な評価方法に

ついて学び、実践していくことが強く求められます。

この２年間で研究を積まれた先生方の実践記録は私たちにとって大きな財産です。どの先生方の実践も、特別な環境において行われたものではなく、どの先生方にとっても参考になり、そして同じように実践することができるものばかりです。もちろん、目の前の児童・生徒の状況に合わせて適宜変えていくことは必要ですが、ぜひ参考にいただき、先生方の実践に活かしていただければと思います。その一歩が、三重県の子供たちの英語学習に対する意欲を高め、英語力を向上させることにつながります。ぜひ、最初の一歩を踏み出していただけたら幸いです。

令和 4 年度 実践事例



1 地 域 明和町

2 学校名 明和町立明星小学校

3 名 前

4 研究テーマ 逆向き設計でつくる授業（ゴールを明確にする）

5 目 標

子どもたちにつける力を明確にして、またそれに向けてのアプローチを効率的に導き出すために、ゴールを明確にしたうえでの授業づくりを行う。（外国語の授業に限らない）

6 実 践

- ✓ 授業を適切に展開するため、ゴール設定（めあて）や目指す姿をしっかり決め、教師自身がブレないようにした。
 - ✓ パフォーマンステストだけのふり返しカードを作成。
-

7 成果と課題

○成果

- ✓ 子どもたちに提示するめあてを吟味・精選するようになった。
- ✓ 普段のふり返しは、本時のめあてに対するものだったので、子どもたちが書くふり返りの文言も漠然としたものになってしまっていたが、パフォーマンステストにフォーカスしたふり返しシートを使うことで、より前向きで意欲的なふり返りができるようになった。

○課題

- ✓ パフォーマンステストの方法や意義自体が、まだ校内でしっかり認識されていない為、取組を広げられなかった。
-

8 今後に向けて

- ✓ 少しずつ、小学校におけるパフォーマンステストの取組や意義を共有していきたい。
- ✓ まずはパフォーマンステストをやってみる。そして子どもたちの「話したい」「もっと話せるようになりたい」という意欲がどのようにすれば引き出せるかを考える。パフォーマンステストはそのきっかけになると思う。

明星小学校第 5 学年 A 組 外国語科学習指導案

日時 2022 年 12 月 16 日（金）第 6 限

場所 5 年 A 組教室

指導者

ALT

1 単元名 What would you like?（東京書籍 New Horizon Elementary 5 Unit 6）

2 単元の目標

- ・自分のことを伝えたり、相手のことをよく知るために、ていねいな表現を使って注文したり会計したりすることなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりすることができる。
- ・世界の食文化について考え、食事のマナーや食べる方法など外国語の背景にある文化に対する理解を深める。

3 言語材料および題材の評価規準

・言語材料

〈表現〉 What would you like ? / I'd like ～.

How much is ～ ? / It's ～ yen. / ～ yen plus … yen is () yen.
など

〈語彙〉 食べ物(Picture Dictionary p.8 など)/ 飲み物/デザート(Picture Dictionary p.9 など)、味など(bitter など)、数(one, hundred など)

・評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉上記の言語材料(表現・語彙)などについて理解している。 〈技能〉丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、聞き取る技能を身に付けている。	・相手のことをよく知るために、丁寧な表現を使って注文したり会計したりすることなどについて、短い話の概要を捉えている。	・相手のことをよく知るために、丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、短い話の概要を捉えようとしている。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、日本在住の外国出身の人について短い話の概要を捉えようとしている。

読むこと	〈知識〉アルファベットの活字体の大文字・小文字について理解している。 〈技能〉アルファベットの活字体の大文字・小文字を識別したり、その名前を発音したりする技能を身に付けている。		
話すこと(やり取り／発表)	〈知識〉上記の言語材料(表現・語彙)などについて理解している。 〈技能〉丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、上記の言語材料(表現・語彙)を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	・自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	・自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、丁寧な表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを話そうとしている。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、地域の特産物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
書くこと	〈知識〉アルファベットの活字体の大文字・小文字について理解している。 〈技能〉アルファベットの活字体の大文字・小文字を書く技能を身に付けている。		

4 指導上の考察

① 単元について

5年生外国語科の授業の6つ目の単元である。既習単元の目標すべてにおいて、「自分のことを伝えたり、相手のことをよく知るために～(中略)～伝え合ったりできる。」ということが設定されている。自分のことを伝えるために他者を意識し、他者の理解をするという考え方は3年生の外国語活動から継続されている。

本単元ではレストランで、丁寧な表現を使って、自分が食べたいものを注文したり代金を支払ったりするという目的・場面・状況が設定されている。4年生(Let's Try 2)のUnit 2では、“What do you want?” “I want ….”という言い方を学習した。5年生は国語で敬語を学習するが、ここでは、英語にも“What do you want?”と同意の“What would you like?”というていねいな表現の仕方があるということを理解させる。

既習事項との関連についてはUnit 5の人に尋ねる表現や、中学年で慣れ親しんだ表現を多く含む。また食べ物を注文するという設定は、児童にもなじみが深く想起しやすい場面である。既習の食べ物などの語彙を使いながら、その場面や状況に応じたやり取りができるようにさせていけると考える。

② 指導について

ていねいな表現を知り、その表現を使って注文したり会計したりできるようにさせるのが最終ゴールである。今までに慣れ親しんでいる“What do you want?”という表現と、“What would you like?”という表現を対比させて出てくる第1時の Starting Out で英語のていねいな表現に気づかせていく。“What would you like?”は、中学校では「会話練習」のようなページに出てくるのみで、単元の中で取り上げられてはいない。また、別単元でも繰り返し登場する表現ではないので、授業の中では何度も言わせて定着を図りたい。

語彙に関しては、数、食べ物や飲み物、デザートなどの既習のものが多数登場する。Picture Dictionary で確認しながら復習していきたい。そしてそれらを使いながら、いろいろな文でのやり取りができるようにさせていきたい。

今後の活動として、3年生の児童と交流することを計画している。5年生がお店屋さんになって3年生と英語でやり取りしながら、3年生に好きな色や好きな形のシールをわたすという活動である。本単元で学習するていねいな言い方は3年生では出てこないが、相手に対する丁寧な接客という面でのやりとりの参考にさせていきたい。

〈学習内容のつながり〉

小学校 3 年生 (Let's Try 1)

Unit 3 How many ~?

Unit 4 I like ~.

Unit 5 What ~ do you like ?

小学校 4 年生 (Let's Try 2)

Unit 4 I like ~.

Unit 4 I (one) ~ 60(sixty)

Unit 7 What do you want ? / I want (potatoes), please.

小学校 5 年生 (NHE 5)

Unit 2 What do you want for ... ? / I want ~ for

Unit 3 What do you want to study ? / What do you want to be ?

Unit 5 What would you like ? / I'd like ~./ How much is ~ ?/ It's ~ yen. ~ yen, please.

小学校 6 年生 (NHE 6)

Unit 8 What ~ do you want to ~ ? / I want to ~. I want to be ~.

中学校 1 年生 (NH 1)

Let's Talk 4 What would you like ? / I'd like ~. / ~~, please.

Unit 3 I want to ~. / How many ~ ?

Unit 9 What do you want to ~ ? / I want to ~.

5 指導計画（全 8 時）

目 標	主な活動
(1) ていねいに注文したり、値段をたずねたりするやり取りのおおよその内容を理解できる①	Let's Sing Small Talk P.D（デザート） Let's Chant① Starting Out
(2) ていねいに注文したり、値段をたずねたりするやり取りのおおよその内容を理解できる②	Let's Sing P.D（味など） Let's Try① Let's Chant② Starting Out Let's Watch and Think
(3) 食べたい料理を決めて、ていねいな表現で注文をしたり、注文を受けたりできる	Let's Sing Small Talk P.D（食べ物・飲み物） Let's Chant① Let's Listen① Let's Try②
(4) 注文した料理の値段をたずね合ったり、メニューを考えて値段を言ったりできる	Let's Sing Let's Chant② P.D（数） Let's Try③ Let's Listen② Let's Try④
(5) 日本各地の名物を選んでメニューを考えて、ペアで注文したり会計したりできる	Let's Sing Small Talk Let's Chant①② Step 1 Step 2
(6) 「ふるさとメニュートレイ」を使って、たくさんの友達と注文したり会計したりできる（本時）	Let's Sing Let's Chant①② Step 3
(7) 世界の食文化について考え、世界と日本の文化に対する理解を深めることができる	Let's Sing Small Talk Let's Chant①② Do you know? Challenge
(8) 英語と日本語の違いを知り、世界と日本の文化に対する理解	Let's Sing

を深めることができる	Small Talk Let's Chant①② ことば探検 日本のすてき
------------	--

6 本時の指導（6/8 時）

（１）目標 「ふるさとメニュートレイ」を使ってたくさんの友達と注文したり会計したりできる。

（２）主な表現 ・ What would you like ?
・ I'd like ～.
・ How much is it?

（３）展開(45 分)

	主な学習活動	指導上の留意点
導入	【Warming up】 ・ 挨拶をする。 【Let's Sing】 ・ What would you like?を歌う。 【Let's Chant】 ① I'd like a hamburger. ② How much is it? ・ チャンツを聞き、言う。	・ 気分・日付・天気などについて聞く ・ カラオケの音に合わせて歌わせる。 ・ チャンツを流し、一緒に言わせる。
展開	（Step 3） ・ モデル映像を視聴する。 ・ メニューと値段を書いたものを用意する。（事前に準備しておく） ・ お店屋さん役とお客さん役の 2 つのグループに分かれて、注文の会話を行う。	・ モデル映像を見せて、Step3 の内容を確認させる。 ・ ALT や児童とモデル会話を行う。 ・ 3 つ以上の料理を注文するときの言い方や、会計係がお金を受け取った時の表現を確認する。 ・ お店屋さん役とお客さん役の 2 グループに分け、やり取りを行わせる。 ・ 各地の名物料理を注文するようにさせる。 ・ 途中で交流して、疑問などがあれば解決するようにさせる。 ・ 役を交代して、再度行わせる。 〔評価〕 ○自分のことを伝え、相手のことをよ

		く知るために、ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いてお互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。〔思考（話すこと・やり取り）〕 ○自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いてお互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。〔主体的（話すこと・やり取り）〕
終末	・ 振り返りをする。 ・ 挨拶をする。	本時をふりかえり、よかったところをほめる。

（３）参観の観点

- ・ 授業の中で適切に言語活動ができていたか。
- ・ 児童は、自分の考えを話したり相手の話を聞いたりするために、積極的にコミュニケーションをしていたか。

7 パフォーマンステスト（やりとり）の評価基準 具体例

評価	具体的な内容		
	知・技	思・判・表	主学態
A	質問ができる。 質問に対して答えることができる。 （英文の正確さは評価しない）	おすすめの料理を説明することができる。おすすめの理由を話すことができる。 It's good. It's delicious. など 質問を付け加えることができる。 Is it sweet? Is it healthy? Anything else? など 感想や相槌などを付け加えることができる。 Nice! I want to try it. It's sounds yummy. など	おすすめの料理を説明している。おすすめの理由を話そうとしている。 It's good. It's delicious. など 質問を付け加えようとしている。 Is it sweet? Is it healthy? Anything else? など 感想や相槌などを付け加えようとしている。 Nice! I want to try it. It's sounds yummy. など メニュー作りなどに意欲的に取り組んでいる。
B	質問ができる。質問に対	質問がわからないときに	質問がわからないときに

	して答えることができる。(英文の正確さは評価しない) Hello. Hello and welcome. What would you like? I'd like a ~ and ... OK. How much is it? A ~ is 000 yen. 000 yen, please. It's 000 yen. 000 yen plus 000 yen is 000 yen. Thank you.	聞き返し、答えることができる。 相手の言葉を聞いて繰り返したり、反応したりできる。 相手の反応を確かめながら、答えることができる。	聞き返そうとしたり、答えようとしていたりしている。 相手の言葉を聞いて繰り返そうとしたり、反応しようとしていたりしている。 相手の反応を確かめながら、答えようとしている。
C	B を満たしていない	B を満たしていない	B を満たしていない

授業者 ～授業を終えて～



まず今回は、“What would you like?”という表現が丁寧な表現という説明をし、ちょうど小学校5年生で敬語を習う時期でもありました。この後、英語という教科において、いつこの表現を学ぶか調べたところ、中学校1年生で会話練習のところで出てくる程度であったため、この5年生でできればしっかり覚えてもらいたいと思いました。

当初、会話に使用するメニューは教科書のものを使用する予定でしたが、絵が好きな児童たちだったため、自分たちでメニューづくりから始めました。この作業は直接英語の活動ではありませんが、これはこれで児童たちが言語活動に向かう補助的なものとして、それぞれの意欲喚起ができたと思います。

阿野先生



ありがとうございました。確かに、授業の時に子どもたちの絵をほめた時、とてもうれしそうで、モチベーションも上がっている様子でした。これはどの時間につくられたのでしょうか？

授業者



朝の学習の時間に課題が早く終わった時やその他の教科の課題が早く終わった時などの余った隙間時間を利用していました。

阿野先生



その時は多くの児童がピクチャーディクショナリを利用して作業すると思いますが、その時の指示はどうされていましたか。

授業者



ピクチャーディクショナリも使用していましたが、そこに載っていない単語もあったため、ALTの先生に聞いたり、それでも分からないものは、日本語でもいいので、まずは書くようにしていました。

高校の先生

授業の中で最初にやり取りをしている際、メニューを聞き取る際に、確認の仕方が分からなくなる児童がいましたが、先生が上手に誘導されて、もう1回みんなでお客さんと店員のやり取りを確認したことで、その後の活動がスムーズになった様子でした。このように分からなくなったところを丁寧に拾い上げ、確認した上で進められところがよく

て、高校でも真似できるところだなと思いました。

指導主事

子どもたちがとても良い雰囲気で、言語活動を楽しんでいたところがよかったと思いました。質問としては、パフォーマンステストの評価基準の具体例の知識・技能のところに、「英文の正確さは評価しない」というふうに指導案にありますが、知識・技能については、「表現の正確さ」が大事であると教えて頂いたこともあるのですが、小学校段階の扱いについて教えて頂ければと思います。

授業者



確かに英文の正確さも必要とは思いましたが、例えば、前置詞の“a”をつけるところなどは、難しいところもあり、今回そのあたりを重視すると、活動が一段階難しくなってしまうと思ったため、今回は控えました。ただ、“I would like～.”と“I like～.”の表現の違いについては把握できるようになってほしいと思いました。

阿野先生



この点については、「正確さ」の定義だと思うのですが、今おっしゃったように、“a”と“The”や複数形などの「正確さ」を評価しないということだと思います。

小学校でいう「正確さ」とは、例えば、“What would you like?”や“How much is it?”など、このような表現が使われているかどうかや、そのあとの質問のところで、どのような表現を使っているかをみるのが、今回の知識・技能のところだと思います。それで小学校の段階ではよいと思います。

また今回、知識・技能に入っている、“Hello.”、“Hello and welcome.”、“Thank you.”などは、知識・技能から抜いてもよいと思います。“What would you like.”から“～yen.”までの表現をちゃんと言えていれば、この部分が知識・技能の「A」に入ってもいいくらいに思います。ここでは質問ができ、質問に対して答えることができるという、具体的には注文をして、お金を払ってというところができていれば「B」でよいのではないのでしょうか。また、その中でちゃんと相手の目を見て、“What would you like?と聞かれて、“I would like～.”とか““How much is it? “～yen.”というやり取りをきちんとできるということは、この単元の言語材料

を正確に使っていることになるので、その場合は知識・技能の「A」にいくのではと思いました。おそらくですが、これらすべてをきちんと使いこなせる児童は一部かも知れませんが、多くの子は何を買い求めるかが分かっていたので「B」にいていたのではないのでしょうか。それから思考・判断・表現の方は、黒板にも貼ってあった表現ではなく、先生が例えばこういう表現もあるよと途中で付け加えられた、“Is that spicy?”など、やり取りをする中で、これはどうだろうと思って聞いてみたりとか、その追加情報を聞かれて、それに対して、“Oh, it’s spicy.”などと答えたりできることや、間違えないように「～ですね」と確認したりできるところが思考・判断・表現に入るのではないのでしょうか。学習した内容をきちんと使っていれば知識・技能の方で、それ以外の目的・場面・状況に応じて、飲み物を頼んでいない時に“Anything else?”と言えたり、このような対応できているところ思考・判断・表現でみるなどが可能だと思いました。

阿野先生



今日は最初の挨拶のところで、日直さんと他の児童とのやり取りがありました。普通の教室では先生が質問して、児童が答えるケースが多いと思いますが、あのような時間を作っているところは非常によいと思いました。板書計画には、その時に使用した曜日などのカードが非常に目立っていたので、できれば、本日メインの文をもう少し目立つようにしてはと思いました。

教科書にある歌やチャンツを3つとも実施されていましたが、歌ではそのユニットの内容を、チャンツではその表現を染み込ませようという目的で作られています。今日の子どもたちを見ていると、音から文字に繋がっていたようなのでいい形だと思いました。

先生とALTが最初に、店員とお客さんの長い会話を行っていました。事前に教科書の映像を見て、その後先生たちの会話を聞くというのはイメージしやすくよかったと思いました。その時、店員は立ち、お客さんは座っていたのを、そのまま児童たちにも実践させるのもよいでしょう。



“Is this delicious?”と聞かれ、“Yes, it is delicious.”という表現がありました。答える方が“Yes.”だけになりやすいので、答えるところまでみんなで練習

してもよいと思います。

活動に入ったところで、店員とお客さんの役をその場で決める感じでしたが、予めこの列は店員などと決めておき、教室の中で場所を決めて活動すると、今お腹が空いているからあの空いているお店に行こうとか、あの並んでいるところがおいしそうとか、他の要素が生まれてきます。例えば、メニューの前に、中華とかイタリアンとか、お店の種類を提示し、その時の気分に合わせてお店を選べたりすると、更に本来の形に近づけ、ライブ感も出せると思います。

また、レストランに行くときに今回は一人で行っていましたが、二人で行くシチュエーションを作ったりするのも、注文が増え、店員は大変になるかも知れませんがよいと思いました。そうするとクラスを三分割して、1/3をお店にして、二人でお店を選んでいく形にしたりすると、空いているお店にALTが行ってみるなどして、ALTの先生による表現の指導などもできたりするのではないのでしょうか。またこの方法だと時間を区切って行う形になると思いますが、その間に中間指導を入れ、うまく言えていない子のためにもう一度表現の確認をしたり、黒板に貼った表現をもう一度練習したりなどの活動を加えることができると思います。

最後のまとめのように、代表の児童二人が前に出て実践していたのもとてもよいと思いました。その時に表現に困っている児童が現れたら、ALTの先生が後ろにいて、こういう風に言えばいいよ、などとアドバイスをすると、聞いている他の子の勉強にもなると思いました。また、できれば1回は児童とALTの先生でやってみて、ALTの先生がその授業で例に出した表現をすべて出してみると、聞いている児童も、あの時こう言えばよかったなあ、などと復習になり、よりまとめらしくなると思いました。

今日最後の方で当てられた児童が、“Me?”と英語で反応していたところがカッコいいと思いました。あそこで日本語ではなく英語で反応できる場所は普段の授業の積み重ねだなと思い、感動したところです。

授業者

ありがとうございました。とても勉強になったのと、ALTの先生がとても熱心な先生なので、授業の中でALTの先生をうまく活かしてないなと感じるところもあったので、アドバイス頂いたようにうまく活躍していったらと思います。

阿野先生



今は ALT の先生の立ち位置は、コーチの役割をしている感じですが、先生はコーチのままで、ALT にはできれば選手として子どもたちの中に入って活動していただけると、子どもたちの活動も変わってくるのではと思いました。



1 地 域 菰野町

2 学校名 菰野町立菰野中学校

3 名 前

4 研究テーマ 既習事項を活用して表現するパフォーマンステストの実施。

5 目 標

ただ発表するだけでなく、相手に伝わるように発表する。

6 実 践

✓ ドリームファミリーについて、班ごとに発表。

7 成果と課題

○成果

- ✓ 1人ではなく班で取り組むことで表現を工夫できた。
- ✓ 聴く側への指導も、中身について聴くように指導した。

○課題

- ✓ 場面設定やどのように文章を構成していくのか、また定着させていくのかが課題だと感じた。
-

8 今後に向けて

- ✓ 知識・技能と思考・判断・表現を分けて、生徒がより積極的に英語を使っていけるような指導につなげていきたい。

第 1 学年 英語科学習指導案

日時 令和 4 年 1 1 月 1 8 日（金）第 3 時

学級 菰野町立菰野中学校 1 年生 3 組

場所 1 年 3 組教室

指導者

1. 単元名 You Can Do It! 2 「ドリームファミリーを紹介しよう」

(Here We Go! English Course 1)

2. 単元目標 YouTube のプロデューサーになり、ファミリー You Tuber の視聴者数を上げるために、身近な先生、芸能人、歴史上の人物、キャラクターなどよく知られている人物をキャスティングして、家族のメンバーを紹介することができる。

3. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度
話すこと (発表)	(知識)Unit 6 までの学習事項(言語材料)の形・意味を理解している。 (技能)Unit 6 までの学習事項(言語材料)の理解をもとに、人物の性格などの情報を伝えている。	ドリームファミリーを紹介するために、人物の情報や、できること、事実、性格などを既習した語句を使って話している。	ドリームファミリーを紹介するために、人物の情報を調べて、できること、事実、性格などを調べ整理し、既習した語句を使って話そうとしている。

追記：単元終末の班ごとの発表の際、生徒にどの班が一番良かったかアンケートをさせたところ、1 回目を実施した学級では、声の大きさやアイコンタクト等の技術面にフォーカスした評価が多かった。次の学級で実施した際、内容面にフォーカスして授業者がフィードバックをしたところ、生徒のアンケートも、内容面にフォーカスした評価が多くみられるようになった。

4. 単元の指導について

本単元は生徒が身近に考えられるようなテーマを設定し、人物紹介をする活動を通して既習の文法事項の活用をすることが目的である。1 学期には ALT とのインタビューテストを行い、やりとりの活動を行った。パターンに当てはめる返答はある程度できていたが、さらに付け加えて自分のことを相手に伝えることに自信がない生徒も見られた。そのため、今回のパフォーマンステストでは第 3 者の人物紹介を行い、既習事項を活用して表現できるよう発表のテストを行うことにした。また、人前で発表することに苦手意識を持つ生徒もいるので個人ではなく、班ごとに発表することにした。中間指導では振り返りシートで個人指導を行いながら達成度合いを確認し、ミニ発表会を増やしていく。

5. 指導計画 (全5時間)

時間	★ねらい、○活動内容	知	思	態
1	★ドリームファミリーを紹介する内容や方法を理解することができる。 ★教科書の Listening を行い、どのように紹介するかを考えることができる。 ①ドリームファミリーで誰を紹介するかを考える。 教科書にある家系図を利用し、班で誰を紹介するか、プリントに書きながら考える。		○	
2、3	★写真や絵を使って説明する文を完成することができる。 ★作った英文をグループ内でやりとりして、考えたことや感じたことなどを伝え合うことができる。 ①Unit 4～6 で学んだ代名詞や三単現の表現を使いながら説明文を考える。 ②タブレット（写真）を使ってスライドを班で作成し、説明できるようにする。	○	○	○
4	★班での練習をもとに流れに沿って発表練習することができる。 ①班で練習や振り返りを行い、伝える内容を再度考える。 ②隣の班とミニ発表会を行い、お互いにどうすればさらによくなるか伝え合う。		○	○
5 (本時)	★ドリームファミリーを全体に発表することができる。 ドリームファミリーを紹介し、聞き合うことができる。	○	○	○

6. パフォーマンステストの評価基準 話すこと（発表）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	ほとんど誤りのない正しい英文で話すことができる。	ドリームファミリーに選んだ人物ができること、事実、性格など調べたことを、既習した語句を使って詳しく話している。	聞き手に「このドリームファミリーならば視聴者数が上がりそう」と思ってもらえるように、ジェスチャー、目線、スピード、強弱を使って熱意を表しながら、自分の考えを伝えようとしている。

B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	ドリームファミリーに選んだ人物ができること、事実、性格など調べたことを、既習した語句を使って話している。	聞き手にドリームファミリーを伝えようとしている。
C	B に満たないもの	B に満たないもの	B に満たないもの

7. 指導過程（本時）

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	(1) Greeting (2) パフォーマンステストの進め方、評価基準を聞く。 (3) 班で一度練習する	・聞き手に伝わるように最終確認を行わせる。
展開	タブレットでドリームファミリーを映し、発表する。 ・1 班ごとに前で発表する。	ビデオで撮影し、後ほど評価を行う。 ・聞き手はどの班が一番視聴者数が取れそうか考えながら聞くように指導する。
まとめ	・振り返りシートを記入する。	どの班が一番良かったかアンケートを行う。 発表でうまく行ったこと、改善点などを振り返らせる。

（例文）A 評価

A: This is our dream family.

S1: Mr. Takahashi is our father. He is strong and funny. He likes playing the saxophone.
He is a good father.

S2: Ms. Yamada is our sister. She is cute. She can run fast. She likes sports.
She is a good sister.

S3: Mr. Higuchi is our brother. He can play soccer. He loves his girlfriend. He is kind.
He is a good brother.

S4: Mr. Horigo is our brother. He is funny. He can use a computer very well.
He plays table tennis. He is a good brother.

A: Do you like our dream family? That's all. Thank you.

※三単現、動名詞など既習事項を工夫して紹介している。

(例文) B 評価

A: This is our dream family.

S1: Mr. Takahashi is our father. He is strong. He is funny. He is the brass band teacher.

S2: Ms. Yamada is our sister. She is cute. She is kind. She can run fast.

S3: Mr. Higuchi is our brother. He is cool. He is kind. He can play soccer.

S4: Mr. Horigo is our brother. He is funny. He is a table tennis teacher. He can draw
Kumamon.

A: Do you like our dream family? That's all. Thank you.

※人柄、できることなどを紹介している。

S1~S4 をそれぞれのメンバーが発表でつなげていく。それぞれの個人を評価する。

授業者 ～授業を終えて～



今回、このドリームファミリーの活動をしていく中で、最初に「聞いている人に伝わるような発表をしよう」という目標を伝えて進めてきました。実はもっと余裕をもって三人称まで授業をしっかりしてから取り組みたかったのですが、実際は三人称の導入を終えてから、すぐにこの取組に入ることになったため、なぜ“s”をつけるのだろうと疑問を持つ生徒もいる中、今回は5回目だったのですが、帯活動として三単現の“s”をつけた26の動詞が載った表をペアで音読練習をし、という時に“s”がつくのかということもKahoot!などのアプリを使い、練習をして、親しみを持ってから取り組むことにしました。指導計画のところでミニ発表会というものがありますが、事前に班で取り組んでみて、隣の班と見せあい、「もっとこうしたらうまくいくよ」というアドバイスをお互いに行いました。頑張っただけ暗記をするというところに目が行きがちですが、ただ発表するだけではなく、相手に伝わるようにするにはどうしたらよいか意識を向け、今回生徒たちも頑張れたと思います。

中学校の先生

発表までに原稿を集めて指導等はされましたか？

授業者



これまでに集めてはいませんが、その都度計画の中で文を組み立て、質問があるか確認後に指導を入れました。タブレットを使って英文を全部調べるのではなく、単語だけは調べても良いことにしていました。発音が分からないものは入力すると音声を確認できたりするので、そのように準備をしてきました。今回は原稿を集めましたが、評価には入れずに、発表と合わせて参考までに、評価の材料にしようと考えています。しかしそれ自体で評価を行うわけではありません。

中学校の先生

1年生であれだけ話せるのはすごいと思ったのですが、初めから生徒には評価について伝えているのでしょうか。

授業者



生徒たちの原稿の裏に、評価についても書かれており、どのような観点で評価するかを細かく伝えた上で準備を進めました。今回生徒たちは発表で精一杯だったので、“s”などをつけていなかったケースもありますが、今回それの一つ一つ訂正していくのではなく、後日、名前等は出さずに、例としてこのような時はどうしたらよいか？などと問い返し、落ち着いた状態で考えさせてあげたいと思います。

阿野先生



今回の発表で“have’s”と言った生徒がいましたが、“s”をつけなければと気づいていた点はすごくよかったのではないのでしょうか。英語の歴史の中で have に s をつけると言いにくいので has になったりしてきた流れ等もあるので、とりあえず英語で言ってみて、まずは内容を大切に、何かおかしいところはあるか、生徒が自身で気付けるような流れは定着につながると思います。

高校の先生

中学校での英語授業についてこれまで拝見したことがなかったのですが、ある班の生徒たちは全員スポーツ選手を選んでいました。ファミリーメンバーを選ぶ上で何か決めたりはしなかったのでしょうか。私はその班が面白かったと思ったし、ファミリーの選び方等も評価するというのは難しいのでしょうか。

授業者



設定がドリーム Youtuber で、授業でこの組み合わせにしたら視聴率が上がったということを学んだので、視聴率のことを考えて、班によってはスポーツ系やアニメキャラで揃えたりしたようです。他の班では学校の先生が入っていたり、ガリレオやナイチンゲールが入っていたり、すごいところを選んだな、というのはありましたが、組み合わせたらどうなるかまで、そこまで考えてられていたかな、というのはあります。この人たちを組み合わせたら視聴率が上がるかもということで選んできていると思います。

阿野先生



今のご質問は、投票をする時に、スポーツ系を選んですごいきれそうとか、そういうことで選んでいいのかな？ということでしょうか。つまり発表が上手だったとか覚えていたということで投票させるのか、それともおじいさんに誰々がいるからとても面白そうとか、そういうことでしょうか。

授業者



確かに発表が上手だったから選ぶというよりも、どこが一番面白くて視聴率が上がりそうかと、そこで選ぶように伝えていました。生徒たちの中には、発表がとても上手だったから選んでいたという子もいたかもしれません。だからアンケートを作った時に、うまかった班と面白かった班の2つ作っておくのも1つの手だと思いました。

阿野先生



パフォーマンステストの評価基準の表を見ると、生徒たちが工夫したというのは知識・技能に入りこむのかと思うのですが（いわゆるスラスラ英語で話すというのは知識・技能に入っていると思うのですが）、ドリームファミリーで選んだ人物について、こんなことができるんだよ、というのは思考・判断・表現、そして態度の方で、聞き手にこのドリームファミリーならば視聴者数が上がると思ってもらえる、というこれが一番の目的だと思います。3観点うち2観点がここに入っているのです、このあたりを最後の評価の工夫した、というところにできたら一番いいのではないのでしょうか。

どうしてこの人をお母さんにしたとか、小学生でも身の回りの人を紹介するという活動が教科書にあり、その時にまず考えるのはそこで、この人だったら面白いとか、こんな兄弟がいたらこうだとか、そういうことを考える活動をした後に今回のような中学校での活動を行うので、最後に生徒が工夫したことというところで、どうしてこの人を入れたのかとか、そういうコメントが入ったらいいなと思いますし、聞き手を育てるという点で、他の班の発表を聞いている時、ちゃんと発表を聞いていれば、誰がお兄さんならば理想的だとか、そこへのコメントがいっぱい出てくると思います。

ここにいけるといいのかなと思います。

というのも本来の言語活動とは、三人称の“s”が抜けているということより、誰を家族にするか考え、紹介してみるというのがメインになっています。文法のことを言われるとそこがメインになって、本来の活動ではなくなってしまう可能性があるのと、誰かの紹介をする時に三人称を間違えながらもやっているということがメインになるべきではと思います。

先生たちは、教科書の内容がすごく深くなったと感じるかもしれませんが、今回はそこがメインになっていて、中学校ではこのドリームファミリーについての発表のように、見ていて楽しいのですが、聞いている側のコメントが変わるとか、聞き方が変わるとか、そういうところに向けていくと、いわゆる本当のパフォーマンステスト、内容を伝えるためのスピーチなどができるようになるかなと感じました。

段階を追って見ていくと最初に先生が評価についてしっかり伝えていたのがよかったと思います。またこの評価のところで三人称の“s”が入っているかは、知識・技能のところだけに当てはまるものだと思います。思考・判断・表現は、この人はこういう人だとか、英語で話したことが伝わっているとか、そこをみてあげるところだと思います。そしてそこでうまく伝えられないけれど、単語だけになってもがんばって伝えようとしているところが主体的に学習に取り組む態度の評価になると思います。そして、そこは今日のようにパフォーマンステストを行っている時に同時に見ることができるところです。言え言えほど間違える可能性があるのです、“s”がついているかは知識・技能で、思考・判断・表現を伸ばそうとすると、他の動詞なども使用することになるので、この“s”などが落ちる可能性が高くなります。そのため、それがついているかどうかは知識・技能で見てあげて、多くの内容の部分を思考・判断・表現でみてあげることができるかと思っています。

また先生が最初に言っていた、どのようにすれば視聴率があがるかな、それがポイントだよ、というのはコミュニケーションを図る観点からすごく大切なことだと思います。そして更に大切な、聞きながら書かないようにという指導は、アイコンタクトを取る上でとても大切なことだったと思

いました。そしていきなり発表させるのではなく、5 分間の練習時間を与えるのも大切なことだったと思います。

あとは、誰かについての発表の時、誕生日について話すよりも、その人が家族にいたら毎日笑えそうとか、一緒に歌を歌えそうとか、スポーツ系のときには、毎日いろんなスポーツができそうなど、最後に簡単な文でも、そのようなことを言えるようになると更にいいと思いました。

その時に先生が返しとして、“Oh, you can play many sports. Tennis, judo…”などと言葉で伝えたと、聞いている生徒たちは、「そうか、そんなことも考えて選べる」という気づきを発表で提示された写真からだけでなく、言葉で得ることができると思いました。そうすれば次のパフォーマンステストに向けてのよい流れになると思えました。

最後のところで、どの家族と一緒に住みたいと思いましたか、などと質問を投げかけると、先生がおっしゃっていたような基準で、どの班が一番よかったか選びやすくなるのではと思いました。

文法に関しては、ある都道府県の調査によると、中 1、中 2 は三人称の”s”はいろんな文法事項の中でも間違える率が高いものです。これは意味を伴わないからであって、それが間違っている内容も伝わるといふこともあるでしょうし、高校へ上がる前に、段階を追って間違いを少しずつ減らしていけばいいのではと思いました。

研修主事

先生には、生徒たちに対するきめ細やかな事前指導から当日の公開授業、そこでの生徒たちへの配慮、そしてこれから続いていく指導に向き合う姿勢や計画など、たくさんのことを学ばせて頂くことができました。本当にありがとうございました。

1 地 域 川越町

2 学校名 三重県立川越高等学校

3 名 前



4 研究テーマ コミュニケーション英語の中でのライティング研究

5 目 標

- ✓ 明瞭なパラグラフ内に説得力のあるトピックセンテンスを書くことができる。
 - ✓ 多様な視点を比べながら論じる簡単なエッセイを書くことができる。
 - ✓ 様々なニュースについて詳しく説明し、自分なりの考えを書くことができる。
-

6 実 践

- ✓ コミュニケーション英語Ⅲ Lesson 1 において
あなたが推薦する世界遺産を理由とともに紹介・推薦する英文を書く活動を行いました。
-

7 成果と課題

- 成果
- ✓ 3年生の生徒においては、自分の意見や感想をパラグラフ構成を意識しながら英文を書くことができた。
 - ✓ 2年生の生徒においては、自分の意見や感想を文章構成を意識して書くことができた。
 - ✓ GTEC A2 レベル以上に到達した生徒 1 年生（93%） 2 年生（93%）
- 課題
- ✓ ①指導方法の共有と改善（効果的なフィードバックの方法・コモンミスタイプの共有）
 - ✓ ②英語ライティングの指導に自分の考えを論理的に表現する、または自分の考えを表現したいと生徒達が思えるような展開を考えていかなければいけない。年間指導計画の改善の必要性を感じている。
-

8 今後に向けて

- ✓ 年間指導計画の改善は英語科全体で考えていかなければいけない。
- ✓ 上記 4 ①にあげた課題は学年ごとに取り組んでいけるように投げかけたい。
- ✓ GTEC の結果などをうまく活用することができればと考えている。

第3学年 コミュニケーション英語Ⅲ 学習指導案

指導者：

(三重県立川越高校)

令和4年10月20日(木)

(1) 指導上の考察

①授業クラス：国公立文系クラス (3年2組：39名)

ほとんどの生徒が英検2級および同等の英語力を有しており、英語学習に対する意欲も高い。

各大学の入学試験および大学入学共通テストが近づいていることもあり、様々なタイプの英文を読み、各大学の入試問題にも対応できる力をつけていきたい。

②教材：桐原書店 *Pro-visionⅢ English Communication Ⅲ*

Lesson 11 “The Discovery of DNA”

1953年、遺伝の鍵となるDNAの二重らせん構造が明らかになった。科学史を塗り替え

たこの発見の経緯と、その後の遺伝子工学の発展について学ぶ。

(2) めあて：①構成がはっきりとした英文に含まれる主要な考えについて、簡潔な要約を日本語で書くことができる。

②大学入試問題の長文読解等に向けて、英文の構成をつかむ。

読み手が納得できるように、文の構成を意識しながら展開を工夫して、

複数の段落

から成る文章で「Lesson 11 ①～③」の要約を書く。

(3) 指導計画(全5時間)

第1時(55分) Lesson 11 ①～③ 導入・本文理解(R/L)(1)

第2時(55分) ①～③ 本文理解・要約活動(R/S/W)(本時)

第3時(55分) ④～⑧ 本文理解(R/L)(2)

音読・フレーズリーディング

第4時(55分) ⑨～⑬ 本文理解(R/L)(3)

音読・フレーズリーディング

第5時(55分) 本文理解・遺伝子組み換え食品について話し合う(S/L)(3)

(4) 指導観

正確に書きたい、また間違えたくないという気持ち等から、教科書の本文表現をそのままを利用すること等を避け、自身の言葉で書く練習を行う。その為、今回は日本語での要約練習を行う。

内容は生物基礎に関するもので、Lesson 11の本文すべてを理解するには時間を要するが、まずは冒頭の第1～3段落を読み、要約を書く。これまでに教科書を読み、Q&Aに答えることはできるようになっているため、更に、内容をパラフレーズ化して、相手に伝えることができるようになることを目標とする。

(5) 本日の展開

指導手順	時間	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	ペアで海外の動画を見て、情報を伝え合う。 ①事前にペアで、動画を見る順番を決める。 ②動画前編を視聴。	物語をわかりやすく相手に伝えるために必要な情報について

		③動画前編を見た生徒が見ていない生徒に内容 を説明する。 ④ペアで役割を交代して動画後編を視聴。 ⑤動画後編を見た生徒が見ていない生徒に内容 を説明する。 ⑥答え合わせとして全員で動画を確認。	考える。 後に、Lesson 11 を英語でも説明ができるよう、構成を意識する。
展開 1	10分	速読：練習②のベジタリアンに関する文。比較的平易な英文を読み、要約のコツを理解する。 ①文のタイトルを考え、ペアでシェアをする。 ②各自で文のキーワードを探し、印をつける。	キーワードの言い換え表現について注意する。 主題文・支持文に注目する。
展開 2	10分	練習②について、要約のコツを踏まえながら、要約文を日本語で書く。 ①第1段落の主題文に下線し、ペアで確認。 ②主題文に対する重要な支持文を探し、ペアで どこを抜き出したかの確認。 ③第2段落についても上記③、④を行う。 ⑦結論文を抜き出して確認。	
展開 3	5分	練習②について、要約例の提示 ①要約を作成することを意識しながら、これまで考 えた主題文や重要な支持文をワークシートに記 入する。 ②要約例を全員で確認。	表現方法は多くあることを伝える。 要約を書く際に、文の構成とともに、つなぎ言葉を意識する。
展開 4	10分	教科書本文の Lesson 11 1～3 について ①キーワード ②主題文 ③支持文 を探し、ペアでシェアする。 (前時に本文理解をした1～3段落)	言い換え表現 「生物」に関する単語、事柄に注意する。
展開 5	10分	教科書 Lesson 11 1～3 の要約文を書く。 クラスメイトが書いた要約文を読む。	表現方法は多くあることを伝える。

There are a large number of vegetarians in the world. Vegetarians choose not to eat meat for various reasons. Some people do not eat meat because they do not think it right to kill and eat living things. Some are vegetarians because their religion forbids them to eat certain kinds of meat. Many other people avoid meat because they want a healthy body.

It is said that the number of vegetarians is increasing in the world. However, it is difficult to accurately estimate the number of vegetarians. Because the word “meat” has more than one meaning, there are different types of vegetarians. For example, the strict type of vegetarian does not eat any animal products, while for some vegetarians acceptable food may include fish, chicken or duck. Some vegetarians eat eggs but not dairy products, some eat dairy products but not eggs, and some eat both. In short, it’s not always easy to tell exactly what “vegetarian” refers to.

第 1 パラグラフ

主題文

重要な支持文

第 2 パラグラフ

主題文

重要な支持文

結論文

～教科書本文省略～

第 1 パラグラフ

主題文

重要な支持文

第 2 パラグラフ

主題文

重要な支持文

第 3 パラグラフ

主題文

重要な支持文

～教科書本文省略～

授業者 ～授業を終えて～



今回は、あえて要約文を日本語で書かせてみようと思いました。実際、生徒たちは英語でも書くことはできるのですが、その際、間違えないようにと、教科書や調べてきたそのままの英文を書いてしまう生徒も中にはいます。なぜそのような表現になっているかなど、教科書の英文と照らし合わせ、これでは深いところまで落とし込むことが難しいと考え、このような設定にしました。

中学校の先生

教科書の内容がかなり難しいように感じますが、中学校だとこれだけの英語の量を見るとそれだけで難しいと感じる生徒もいるかと思われます。中学3年生まで、高校に向けて英語力を積み上げたいと思うのですが、中学にはいろんな生徒がいるので、高校につなげていくにはどうしたらよいかなと思いました。

授業者



今回は、高校3年生のクラスなので、できるだけ受験に向けてなるべくアカデミックな内容も扱っています。この活動の後で会話をもう少し扱うこともできると思うのですが、この後に遺伝子組み換え作物の是非について扱ったり、文系のクラスということもあり英語は好きでも理系の内容が苦手だったりするところもあるので、できるだけちょっとずつ授業の中で臓器移植についてなどについて自分ならどう思うのかなども話しているので、少し難しめの話題でもなんとか書けるようになってほしいと思っています。

阿野先生



中学校の教科書も変わってきていて、教科書でも長めの文を扱っていますが、中学ではその文章一つ一つを訳していかなければならないのではなく、長文の次のページにある補足的な部分、例えばこの中学の教科書の場合などは、次のページの Round1～3 などの文章から流れをつかめるような構成にもなっています。また、イラストの並べ替えなどがあり、この順番で文章が進んでいくと分かるようにして、長い文でも概要が分かるようになっていきます。それらの活動を何度も繰り返すこ

とによって、30%程度の理解から、中には90%の内容を取れるようになる生徒もいます。ただ、すべての単語を一つ一つやっていくのはかなりの量になってしまいます。

阿野先生



3年生のこの時期に公開授業をするのはなかなかないのですが、まず、文章構成を扱うというのは、入試向けに限らずいくつかやり方があると思います。

今回生徒たちに見せていた動画で、ある子どもが食べ物を盗んで店主に怒られている時、それを見て代金を払ってあげるよという人が現れ、30年後にその代金を払ってあげた人が病で倒れ、手術をした時に、その時の子どもが医者になっていた、という物語ですが、実はこの話は中学校の教科書にも少し内容を分かりやすいものの変えて載っています。これを見せた時、先生がクラスを半分に分けて、片方の生徒だけこの映像を見て、見ていない生徒に伝える、後半は役割を交代して内容や要点を伝え合う活動をしていました。これは要点を掴んでそのままではなく、自分の言葉で伝えるというねらいがあったということでした。

この時に先生からこれは感動的な話であるということ伝え、生徒は集中して見てその内容をペアに伝えていたけれど、それだけで終わるのは少しもったいないところで、それを見た後に、「こういう話だから私はこう思った」などという要約のようなものを少し書いてみるのもよいのではないのでしょうか。そうして読んだり話したりして感想を言うということに繋がたらよいと思いました。

また、ベジタリアンについての話を読んでいるところで、キーワードに印をつけて読んでいきましたが、本文には、なぜトピックセンテンスやサポートセンテンスがあるかとうことを生徒たち教えるというのは、内容や要点を取るためにしていますよね。つまり、その本文を読んだ上で何が大切かということ、実は最初に言いたいことがある、そして次にそれだけだったら分からないので詳しいことがくる、という流れを理解していくのが本来はしていくべきことなのではと思いました。最初に支持文等があるからと探していくことは、テクニク的にはあることかもしれないけれど、導入の時に

は一回本文を読んでみて、こういう流れになっているという気づきがあれば、それに従って読んでいく。そうでなければ数学の公式のようになっていく恐れがあるかもしれません。きれいに日本語でいう起承転結などがはまっている文もあれば、そうではない文章もあります。入試でもそのような文が出てくる場合もあるので、内容、例えばベジタリアンのところを見て、そこから逆算してテーマは何か、どこにあるのかな、という手順でいくと、活動の内容も変わってくるのではと思いました。また最初に先生が詳細を教えなくても、あの生徒たちなら自分で気づくことができるのではとも思いました。またそのような手順でいくと、最初に読んだ時よりも支持文等が分かることで読みやすくなったなど感じることもできると思います。あるいは分からない単語があったとしても読めるということに気付けると思います。



日本語で要約をすることということでしたが、あの生徒たちなら、英語の文章そのものからトピックセンテンスを抜き出したりする方が簡単なのではと思うのと、日本語にした時に構成が変わってしまうので、確認にはいいかもしれないけれど、それを日本語で要約すると起承転結などの順序が変わってくる可能性もあります。つまり内容でも、日本語を使う場合と英語を使う場合では文章構成が変わる。実は、これが私達が教えたいことであるかも知れません。入試にしても日本語に直している時間はないので、その辺の配慮も必要だと思います。

また、“However”などのつなぎ言葉のところでも、最初に先生が説明してしまうのではなく、まずは生徒たちが、その前後の文でどちらが大切になるかを判断させてあげの方がよいかもしれません。

令和 3 年度 実践事例

第6学年外国語科学習指導案

令和3年12月13日（月）

授業者 専科

1 単元名 My Best Memory 『ONE WORLD smiles 6』 Lesson 7 - 5

2 単元目標

- (1) さまざまな学校行事を、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)
- (2) 思い出に残っている学校行事の表し方を知って、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)
- (3) スライドやワークシートを作って、思い出の学校行事について友達に伝えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (4) 相手にわかりやすいスライドやワークシートをつくらうとしたり、友達やお世話になった人に感謝の気持ちを表そうとしたりする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (発表)	<知識> 小学校の思い出について、学校行事や What's your best memory? My best memory is (the school trip). We went to (ate, saw, enjoyed) ～. の表現を理解している。 <技能> 小学校の思い出について、学校行事や We went to (ate, saw, enjoyed) ～. It was ～. 等を用いて紹介している。	友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している。	友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介しようとしている。

4 単元について

(1) 教材について

本単元では、自分の小学校の思い出を振り返り、思い出に残っている学校行事を紹介する。この単元は、自分の身近な出来事を紹介するため、児童は発表内容をイメージしやすい。この単元を扱う時期は12月で卒業を意識し始める時期であり、動機付けもしやすい。

言語材料は3つで、① “What’s is your best memory?” “My best memory is ～.” ② “I went to/ ate/ saw/ enjoyed/ ～.” ③ “It was ～.” である。①は児童が初めて出会う表現であるが、②、③は既習内容で6年生の Lesson 5 で学習している。児童には、今までに学んだ表現を活用して、どのように自分の小学校の思い出を伝えればよいかを考えさせたい。

単元のゴールの表現は以下のように設定した。

< 発表例 >

S: Hello.

Ss: Hello.

S: My best memory is the school trip.

I enjoyed Shima Spain Village.

I rode the rollercoaster, the Pyrenees.

It was exciting.

I ate chocolate churros.

It was delicious.

Thank you.

(2) 指導について

① CAN-DO リストとループリック評価の作成および活用

4月に本校においてCAN-DOリストの作成をした。このリストを作成することで、児童も教師も1年間を通してどのような力をつけるかが明確になり、見通しを持って取り組むことができる。CAN-DOリストは、小学校段階であることから、「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」の2技能3領域で作成した。「読むこと」「書くこと」の2技能2領域については、アルファベットの読み書き以外は「慣れ親しみ」として扱う。本単元では発展的内容として、発表内容をワークシートに書く活動を行うが、「書くこと」の技能として評価の対象とはしていない。

CAN-DOリストの活用として、振り返りシートにその単元のCAN-DOとループリック評価を掲載し、いつでも児童が確認できるようにした。振り返りシートを使って、単元のはじめやそれぞれの授業のはじめに、単元でつきたい力を共有するようにした。これを行うことで、児童は今何を学習しているかが明確になる。教師も自身の授業を振り返り、単元を通して一貫した指導を行うことができる。実際に、児童やT2の担任から、「英語は何を勉強するかが分かりやすい。」という声があった。

ループリック評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現等」の2観点で、3段階評価（◎：十分満足できる、○：おおむね満足できる、△：努力を要する）で作成した（5 単元の評価基準（ループリック評価）を参照）。

「知識・技能」では、「おおむね満足できる」の評価基準として「小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を、説明をつけ加えて紹介することができる。」とする。文法等の「正確性」と既習事項の活用として「説明を付け加え

ることができる」を評価基準とし、複数の説明を付け加えることができた場合、「十分満足できる」とする。

「思考・判断・表現等」では、「友達に伝えるために」という目的に対して、どのように工夫できたかを評価する。その工夫として、「繰り返し」「言い換え」「説明」を設定した。「繰り返し」「言い換え」「説明」は、発表原稿を考える中での工夫である。「繰り返し」では、伝えたいことを印象付けるために繰り返して強調することを指導する。

「言い換え」では、難しい言葉を分かりやすい言葉に言い換えたり、ある言葉をより具体的に言い換えたりする方法を教える。「説明」では、文を付け足して詳しく伝えることを指導する。「おおむね判断できる」の評価基準として、「友達に伝えるために、小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を工夫（繰り返し、言い換え、説明等）して紹介することができる。」とした。本単元では、児童の実態を鑑みて、「繰り返し」「言い換え」「説明」のどれか1つが出来ていた場合に「おおむね満足できる」と評価を行う。さらに複数できていた場合、「十分満足できる」と評価する。

② 単元の進め方について

本単元では、小学校の思い出について紹介する活動を行う。単元の前半はインプット中心、後半はアウトプット中心で単元を組み立てる。

第1時では、単元のゴールを示し、映像の視聴を通して、ゴールの活動で使う語句や表現のインプットを行う。小学校の思い出を振り返りながら学習の見通しを持たせるとともに、チャンツやペアでの活動を通して、さまざまな学校行事について慣れ親しませる。具体的には、担任が単元のゴールを示した上で、デジタル教科書『ONE WORLD Smiles 6』の【Let's Watch】を視聴し、さまざまな学校行事の言い方を聞かせた。【Let's Say It Together】のチャンツで言い方を練習した後、“What's your best memory?” “My best memory is the ○○.” という言い方を指導した。最後に、ペアで伝え合う活動を行い、「思い出の出来事」をペアで言い合った。「修学旅行を言いたい。」「自然教室は何て言うの？」等、意欲的に取り組もうとする児童が多く見られた。

第2時では、リスニングの活動を通して学校行事の表現にさらに親しんだり、外国の学校行事について聞くことで異文化理解につなげたりする活動を行う。そして、ペアでの活動を行って、少しずつアウトプットを増やしていく。具体的には、前時の復習をした後、【Let's Listen 1】を聞き、小学校の思い出の表現に慣れ親しませた。ここでは「思い出の出来事」「何をしたか」「感想」の3点を意識して聞き取らせた。授業の後半には、ペアでの活動を行った。前回の復習をした後、“What's your best memory?” “My best memory is the ○○.” に “I enjoyed (saw, ate, went to) ○○.” の表現を付け加えて、やりとりを行った。やりとりを何度も行う中で、児童は言い方に慣れて声も大きくなり、全体での発表する児童も増えてきた。

第3時では、学習してきた表現を生かして、思い出の学校行事についてワークシー

トに英文を書く活動を行う。具体的には、【Let's Read and White】を用いて、ワークシートの作例の内容を音声で聞きながら、読む。その後、ここまでの学習で学んできたことを踏まえて、自分のワークシートを作成する。

単語と単語の間は、分かりやすく相手に伝えることを意識させ、スペースを空けて書くように指導する。また、同様に、文の最初は大文字にすること、文の最後にはピリオドをつけること等も指導する。書くことが苦手な児童には、個別に支援を行う。見本を作成して書き写させたり、赤鉛筆で薄く書いたワークシートを渡してなぞらせたりしていききたい。

どのように英語で書くかが分からないときは、児童用タブレットを使って調べるように指導する。授業中は、自由に自分のタブレットを使ってもよいことにしている。その場合、色々な表現の仕方があることを伝え、その中で一番伝わりやすいものを選択するように伝えている。児童は積極的にタブレットで調べているが、意味が伝わりにくい表現を書いている児童もいる。机間指導やワークシートを集めたときに指導していく。

児童用タブレットで発表用のスライドを作りたい児童は、ワークシートと同時に作るように声をかける。今までもスライドを作成し、プロジェクターで投影しながら発表してきた。スライドは、写真やイラストのみで作成している。本単元では、小学校の思い出という個人的な内容を扱うため、スライドを作りにくい児童もいるのではないかと考える。今回スライド作りは任意にして、物を見せたり、絵を見せたり、言葉だけで発表したりしてもよいことにする。

第4時も第3時と同様、学習してきた表現を生かして、思い出の学校行事についてワークシートに英文を書く活動を行う。授業の後半にペアでの活動を行い、ワークシートを見ながらやりとりの活動をさせる。やりとりでは、『4つの約束』として「reaction」「repeat」「echoing」「question」を指導している。やりとりの中で、これらを意識して活動させたい。

ペアでの活動では、ペアを変えて2回のやりとりを行わせる。その中で、友だちの良いところは真似をしたり、言いたいことを付け加えたりして、ワークシートの中身をより良くしていくように指導する。机間指導をする中で、そのような児童を取り上げ、全体で共有する。

第5時（本時）では、ペアを何度も入れ替えながら、発表の練習をする活動を行う。具体的には、以下のように行う。

- ① 隣のペアと発表の練習をする（70秒間）
- ② ペアの片方の児童が前の席にずれる
- ③ 新しいペアと発表の練習をする
- ④ 4～5回繰り返す

ペアを変えて何度も話をすることで、話すことに慣れさせる。ただし、コロナ禍ということもあり、向かい合って話すことに不安を感じる児童もいる。そこで、名城大学の曾山和彦教授が提唱する「ドライビング・トーク」を取り入れ、横に並んだ状態で、同じ方向を向いて話を行うようにする。発表の練習の間に机間指導を行い、児童の良いところを取り上げ、全体で共有を図る。

ペアでの活動と活動の間に、良かった児童を取り上げ、全員に共有していく。ルーブリック評価で提示した工夫が出来ている児童を見取り、広げていきたい。

第6時では、全員の前で発表する活動を行う。発表はパフォーマンス評価の一環として行い、1人ずつ前に出て発表する形式で行う。発表の順番は立候補制で、発表したい児童から前に出て発表する。能動的に発表に向かう意識を高めたいという思いから、このような自己決定を重視した形式で行っている。1学期から続けているため、児童はこの形式に慣れてきている。振り返りシートの中にも、「早めに発表したい。」「発表が楽しみ。」と書く児童が多い。自己決定をして発表し、そこで達成感を感じ、さらにがんばろうとする、そのサイクルが児童の中にできつつある。発表の中では、児童の良かったところを褒めて、良かったところを全体に広げる。また、発表が終わった児童には、「全員が発表できるように、自分のできることは何か」と問い、学級のためにできることを考えさせる。

5 単元の評価基準（ルーブリック評価）

評価	知識・技能	思考力・判断力・表現力等
◎	小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を、複数の説明をつけ加えて紹介することができる。	友達に伝えるために、小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を、工夫（繰り返し、言い換え、説明等）を使いこなして紹介することができる。
○	小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を、説明をつけ加えて紹介することができる。	友達に伝えるために、小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を工夫（繰り返し、言い換え、説明等）して紹介することができる。
△	教師や友だちの助けがあれば、小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を、紹介することができる。	友達に伝えるために、先生や友だちの助けがあれば、小学校の思い出について、学校行事と、したことや楽しかったこと等を工夫（繰り返し、言い換え、説明等）して紹介することができる。

6 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

聞くこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）
小学校の思い出についての話を聞き、話の概要を捉えることができる。	思い出に残っている学校行事を尋ねたり、答えたりすることができる。	小学校の思い出について、思い出に残っている学校行事を理由や説明を付け加えて紹介することができる。

7 単元計画（全6時）

時	目標◆・活動○【】	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	
1	◆さまざまな学校行事の話を聞いて概要がわかり、単元の見通しを持つ				
	○あいさつ・Small Talk：今朝の朝食で食べたもの ○Small Talk：先生の小学校の思い出 【Let's Watch】 【Let's Think 1】 【Let's Say It Together】 ○ふりかえり				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認す
2	◆思い出の学校行事について、聞いたり言ったりすることができる				
	○あいさつ・Small Talk：昨日楽しかったこと 【Let's Say It Together】 【Let's Listen 1】 【Let's Listen 2】 ○Let's Talk ○ふりかえり				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認す
3	◆思い出の学校行事について、友達と伝え合い、ワークシートを作る				
	○あいさつ・Small Talk：昨日楽しかったこと 【Let's Say It Together】 【Let's read and Write】 ・ワークシートを作る ○タブレットでスライド作り				○ 【「話すこと [発表]」の記録に残す評価】 ◎友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している。〈行動観察・ワークシート・振り返りシート〉

	○ふりかえり				
4	◆思い出の学校行事について、友達と伝え合い、ワークシートを作る ○あいさつ・Small Talk：昨日したこと 【Let's Say It Together】 【Let's read and Write】 ・ワークシートを作る ○Let's Talk ・ワークシートを見て、ペアで伝え合う ・希望する児童に発表させる ○ふりかえり	○	○	【「話すこと [発表]」の記録に残す評価】 ◎友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している。〈行動観察・振り返りシート〉 ◎友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介しようとしている。〈行動観察・ワークシート・振	
5 (本時)	◆思い出の学校行事について、説明を付け加えて、友達と伝え合うことができる ○あいさつ・Small Talk：昨日したこと 【Let's Say It Together】 ○Let's Talk ・ペアを変えながら、何度も発表の練習をする ○ふりかえり	○	○	【「話すこと [発表]」の記録に残す評価】 ◎小学校の思い出について、学校行事や We went to (ate, saw, enjoyed) ～. It was ～. 等を用いて、紹介することができる。〈行動観察・振り返りシート〉 ◎友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している。〈行動観察・振り返りシート〉	
6	◆思い出の学校行事について、説明を付け加えて紹介することができる ○あいさつ・Small Talk：昨日楽しかったこと 【Let's Say It Together】 【Final Activity】 ・立候補制で前に出て、発表を行う ○ふりかえり	○	○	【「話すこと [発表]」の記録に残す評価】 ◎小学校の思い出について、学校行事や We went to (ate, saw, enjoyed) ～. It was ～. 等を用いて、紹介することができる。〈行動観察〉 ◎友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している。〈行動観察・振り返りシート〉 ・発表の様子を観察し、評価の記録を残す ◎友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽し	

(1) 本時の目標

思い出の学校行事について、説明を付け加えて、友達と伝え合うことができる。

(2) 本時の指導計画 (45分)

時間	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価
5	1 あいさつをする ・あいさつ ・Small Talk (昨日したこと)	○あいさつと Small Talk を付け加えて行わせる ○reaction, repeat, echoing, question を意識させて行わせる。2 往復以上、会話を続けるように声をかける
	思い出の学校行事について、説明を付け加えて、伝え合おう	
1	2 めあてを確認する	
5	3 チャンツを聞く ♪ What's your best memory?	○チャンツを聞かせ、思い出の学校行事と、したことや楽しかったことの表現に慣れ親しませる ○2分間、一人で確認する時間を取る。 一人で呟いたり、スライドを直したりさせ、発表の確認を行わせる ○その後、発表の練習をする時間を取る。児童全員を起立させ、それぞれが声を出し、発表の練習をさせる
5	4 発表の練習をする ・一人で発表内容を確認し、練習をする	○ペアで時間を決めて練習をさせる。 70秒間で行い、自分の発表を伝え合わせる。話し手には発表の工夫を、聞き手には反応を意識させる
19	5 ペアで練習をする ・ペアを変えながら、何度も発表の練習をする	○ワークシート通りに言うだけでなく、変更したり付け加えたりして、より良い発表をめざすように声をかける。 ○1回目が終了後、ペアを変えて、2回目を行わせる。その間に、よい児童の発表の様子を取り上げ、全員に共有する。5回行う ☆小学校の思い出について、学校行事や We went to (ate, saw, enjoyed) ～. It was ～. 等を用い

		て、紹介することができる＜行動観察＞ ☆友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している ＜行動観察＞ ○希望者に全員の前で発表させる。発表のよいところを児童に伝え、共有を図る
5	6 みんなの前で発表する ・プレ発表として、希望者が発表をする	○早く書けた児童に振り返りを発表させる ☆友達に伝えるために、思い出の学校行事について、したことや楽しかった等を紹介している ＜振り返りシート＞
5	7 ふりかえりをする	

ONE WORLD Smiles 6 Lesson 7 振り返りシート（1～3 時）

grade	class	number	name

☆ 4 rules ②

（よくできた ◎ できた ○ できなかった △）

reaction （反応して）			
repeat （繰り返して）			
echoing （文で返して）			
question （質問して）			

☆ CAN-DO チェックリスト

◎ ◎ 自分の力で 、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することが いつでもできる 。			
◎ 自分の力で 、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することが できる 。			
○ みんなと一緒になら 、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することが できる 。			
△ みんなと一緒にでも 、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することが 難しい 。			

☆ ルーブリック評価

	観点 1	観点 2
◎	小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、理由や説明をつけ加えて紹介することができる。	友だちに伝えるために、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、工夫（繰り返し、言い換え、説明等）を適切に使って紹介することができる。
○	小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、説明することができる。	友だちに伝えるために、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、工夫（繰り返し、言い換え、説明等）を使って紹介することができる。
△	教師や友だちの助けがあれば、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、紹介することができる。	教師や友だちの助けがあれば、友だちに伝えるために、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、工夫して紹介することができる。

振り返り 1 時 （できるようになったこと、気づいたこと、分かったことなど）

振り返り 2 時 （できるようになったこと、気づいたこと、分かったことなど）

振り返り 3 時 （できるようになったこと、気づいたこと、分かったことなど）

ONE WORLD Smiles 6 Lesson 7 振り返りシート（4～6 時）

grade	class	number	name

☆ 4 rules ②

（よくできた ◎ できた ○ できなかった △）

reaction （反応して）			
repeat （繰り返して）			
echoing （文で返して）			
question （質問して）			

☆ CAN-DO チェックリスト

◎ ◎ 自分の力で、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することがいつでもできる。 ◎ 自分の力で、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することができる。 ○ みんなと一緒になら、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することができる。 △ みんなと一緒にでも、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を紹介することが難しい。			
---	--	--	--

☆ ルーブリック評価

	観点 1	観点 2
◎	小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、理由や説明をつけ加えて紹介することができる。	友だちに伝えるために、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、工夫（ 繰り返し 、 言い換え 、 説明 等）を適切に使って紹介することができる。
○	小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、 説明 することができる。	友だちに伝えるために、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、工夫（ 繰り返し 、 言い換え 、 説明 等）を使って紹介することができる。
△	教師や友だちの助けがあれば、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、紹介することができる。	教師や友だちの助けがあれば、友だちに伝えるために、小学校の思い出について、したことや楽しかったこと等を、工夫して紹介することができる。

振り返り 4 時 （できるようになったこと、気づいたこと、分かったことなど）

振り返り 5 時 （できるようになったこと、気づいたこと、分かったことなど）

振り返り 6 時 （できるようになったこと、気づいたこと、分かったことなど）

パフォーマンステスト研究・開発チームに係るアンケート

所属名：四日市市立泊山小学校

お名前：

1. パフォーマンステストの実施で、話す活動時間の増加等、日常の授業の指導内容が変わりましたか。また、児童生徒の学習への取組に変容がありましたか。具体的にお書きください。

①日常の授業の指導内容について

児童が話す活動を行う中で、児童自身がその場で考えて話す場面を多く取り入れるようになった。パフォーマンステストに向けたペアやグループでの活動の中で、聞き手が話し手に質問をしたり、もっと詳しい説明を求めたりすることを取り入れるようになった。それによって、児童の発表の内容が充実し、よりよい発表をすることができた。

②教師の指導について

今まで漠然としかわかっていなかった「目的・場面・状況」を設定することの大切さが改めて分かった。「目的・場面・状況」をどのように設定するかによって、「思考・判断・表現」の評価内容が変わる。児童の活動に対する意欲も変化する。それが分かったことが、私自身が一番大きな学びであった。その学びの後、「目的・場面・状況」を示して授業を行うように意識した。すると、児童の動きが変わってきた。「この表現じゃみんなに伝わらないなあ。どうしよう？」と考える児童が増えてきた。今後も「目的・場面・状況」をどのように設定するかを大切に考えていきたい。

③児童生徒の取組について

ゴールの活動に向けて、どのような点を意識して取り組めばよいかがはっきりとして、児童は今まで以上に意欲的に取り組むことができた。また、「目的・場面・状況」をはっきりと示すことで、目的意識を持って取り組むことができた。

2. 今年度の研究活動を通して、ルーブリックや評価において、新たに取り入れたことは何ですか。

思考・判断・表現における評価の観点。例えば、工夫（繰り返し、言い換え、説明等）がある。

3. 今年度の取組を、次年度以降にどう活かそうと考えていますか。

校内や研究協議会等でパフォーマンステストのあり方を提案し、パフォーマンステストの活用方法を伝えていきたい。

4. 次年度のパフォーマンステスト研究・開発チームでは、どのようなことが研究テーマとして考えられますか。

①「話すこと（やりとり）」の評価のあり方について。

②「思考・判断・表現」で評価内容の指導の仕方について。

第3学年 英語科学習指導案

時 令和3年12月22日（水）第2時、3時

学級 松阪市立東部中学校 3年生B組、C組

場所 3年多目的教室

指導者

1. 単元名 Stage Activity 2 Discover Japan (NEW HORIZON English Course 3)
2. 単元目標 ALT がフィリピンに帰る際、自分や友人にお土産を買うアドバイスをするために、ふさわしいものを紹介し、それについて調べたことや感じたこと、選んだ理由などを話したり、ALT からの質問に答えたり、自分の意見を伝えたりすることができる。また、やり取りを元にしてお土産を詳しく説明する紹介文（パンフレット）を書くことができる。

3. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (やり取り)	(知識)Unit5 までの学習事項（言語材料）の形・意味を理解している。 (技能)Unit5 までの学習事項（言語材料）の理解をもとに、日本の伝統的なものや日本製の商品について伝え合ったり質問し合ったりする技能を身につけている。	ALT の帰国の際のお土産にふさわしい物を選び、その品物について自分の意見や詳しい情報を加えながら話している。	ALT の帰国の際のお土産にふさわしい物を選び、その品物について自分の意見や詳しい情報を加えながら話そうとしている。
書くこと	(知識)Unit5 までの学習事項（言語材料）の形・意味を理解している。 (技能)Unit5 までの学習事項（言語材料）の理解をもとに、日本の伝統的なものや日本製の商品について詳しい情報を加えながらまとまりのある文章を書く技能を身につけている。	ALT が帰国の際に持ち帰るお土産に関する文を、自分の意見や詳しい情報を加えながらまとまりのある文を書いている。	ALT が帰国の際に持ち帰るお土産に関する文を、自分の意見や詳しい情報を加えながらまとまりのある文を書こうとしている。

4 単元の指導について

本単元は日本の伝統的な文化や独自の文化についての関心を深め、日本を訪れる人に良さを知ってもらう活動を通して、既習の文法事項の復習をすることが目的である。伝統的な文化から派生して、日本らしい商品を ALT が帰国する際のお土産として紹介することを通して、身近に考えられるように設定した。

第1回パフォーマンステストを行った時、「ALT 先生が三重県に何年も住みたくなるように、三重県の良い所をアピールしよう」をゴールに、話す（発表）活動をした。総合的な学習の時間に日本語で作ったパワーポイントを使い、それを基にして、英語で発表した。発表の後に ALT が発表内容についての質問をいくつかしたが、その質問になかなか答えられなかったり、質問に合わない返答をしたりする生徒が何人もいた。そのため第2回のパフォーマンステストではやり取りのテストをすることにした。帯活動として Small Talk を行ない、中間指導は振り返りシートに（言いたかった表現）を書く欄を設け、添削して返すようにした。また、ALT とペアになって即興で1分間やり取りをする授業を行った。

5. 指導計画 （全4時間）

時間	★ねらい、○活動内容
1	★単元の目標を理解することができる。 ★教科書ステップ1の例文を読み、引用するなどしながらお土産についての英文を考えることができる。 ①ALT にふさわしい日本製品（お土産にできるもの）を考える。 教科書にあるマッピングを利用し、ノートに書きながら考える。 ②考えられたところまで、ペアで説明したり質問したりして英文の内容を広げる。
2	★写真や絵を使って説明する文を完成することができる。（パワーポイントで） ★作った英文をペアやグループ内でやり取りして、考えたことや感じたことなどを伝え合ったり、ALT になったつもりで質問し合ったりすることができる。 ①Unit5 で学んだ関係代名詞の表現を使いながら説明文を考える。 ②タブレットを使って説明できるようにする。 ③どんな質問をされるか予測して質問文を英語で考える。
3	★やり取りをもとにパンフレットを作成することができる。 ①生徒同士でやり取りや質疑応答等を行い、伝える内容を再度考える。 ②ロイロノートを使って写真や挿絵などを入れながらパンフレットを作成する。
4 (本時)	★ALT にお土産を紹介し、やり取りをすることができる。 ★やり取りをもとに最終的にパンフレットを完成させる。 ①ALT が帰国するときに持って帰るのにふさわしいものを紹介して、そ

	れについての質問に答えたり、やり取りをしたりする。 ②一枚のパンフレットにまとめ、ロイロノートで提出する。
--	---

6. パフォーマンステストの評価基準（1）話すこと（やり取り）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	ほとんど誤りのない正しい英文で話すことができる。	ALT が日本の物をお土産としてフィリピンに持ちかえるために、 <u>ふさわしいもの</u> を選び、それについて自分の考えや調べたことなどの <u>詳しい情報</u> を加えながら、ALT の考えを求めたり、 <u>話題を広げ</u> たり、質問に <u>適切に</u> 答えたりしてやり取りをしている。	ALT にお土産を「買ってみたい」と思ってもらえるように、ジェスチャー、目線、スピード、強弱を使って熱意を表しながら、お土産品について調べたことや自分の考えを、相手の考えを求めたり、話題を広げたり質問に <u>適切に</u> 答えたりしてやり取りをしようとしている。
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	ALT が日本の物をお土産としてフィリピンに持ちかえるために、日本的な物を選び、それについて自分の考えや調べたことをもとに、ALT の質問に答えながらやり取りをしている。	紹介したお土産品に対して、それについて自分の考えや調べたことをもとに、ALT の質問に答えながらやり取りをしようとしている。
C	B に満たないもの	B に満たないもの	B に満たないもの

（2）書くこと

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	ほとんど誤りのない正しい英文で書くことができる。	調べたことや、自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、 <u>詳しい情報</u> を加えながら、既習の語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	調べたことや、自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、 <u>詳しい情報</u> を加えながら、既習の語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を書くことができる。	調べたことや、選んだ理由などを既習の語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	調べたことや、選んだ理由などを既習の語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。
C	B に満たないもの	B に満たないもの	B に満たないもの

7. 指導過程（本時）

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	(1) Greeting (2) パフォーマンステストの進め方、評価基準を聞く。 (3) ペアで一度練習する。	・制限時間（1 分間）にきちんと行えるように、ペアの相手やテストの順番を間違えないように確認する（事前に伝えておく）。 ・滞りなく行えるように、教室の後ろに座って待っているように伝える。終わったら次の順番の子に声掛けをするように指示する。 ・相手が ALT だと思って練習するように伝える。
展開	テストを受ける人 5 人は第 1 多目的室に移動する。 (1) パフォーマンステスト（1 分） （進め方）・・・ALT の進行で ① タブレットや実物を使って、お土産の良さを説明する。 ② ALT とやり取りをする (2) 教室で待機しているときに、パンフレットを完成させ、提出する。	ビデオで撮影し、後ほど JTE と ALT で評価を行う。
まとめ	・教室に帰ったあと、振り返りシートを記入する。 ・パンフレットをロイロノートで提出する。	・パフォーマンステストの振り返りを書かせる。 ・パンフレットができていない場合、当日中に家からロイロノートで提出するように指示する。

ALT とのやり取り例 (B)

S: I recommend you a furoshiki for your souvenir.

A furoshiki is a piece of cloth that use to wrap and carry thing.

It is wide and square, but you can fold it up and keep it in your pocket.

I want more people to use furoshiki.

T: Why do you want more people to use furoshiki?

S: Because if you use furoshiki, it is good for environment.

T: Where can I buy one?

S: You can buy it at Meiwa Aeon.

T: Ok, I'll look for one. Thank you.

S: Thank you.

パンフレット例

A furoshiki is a piece of cloth that is used to wrap and carry thigs. It is wide and square, but you can fold it up and keep it in your pocket. You can use it for scarf, too.

Furoshiki are not only convenient, but good for the environment. If you use furoshiki instead of plastic bags, you won't waste resources. And when you feel cold, you can use it to keep warm instead of using heater.

You can buy furoshiki at many shops around you, like Aeon and Marm. I want more people to use furoshiki.

パフォーマンステストを参観したことを踏まえての、阿野先生の改善案

パフォーマンステストの評価基準（１）話すこと（やり取り）

<別案> 1 知識・技能に比重を置いた評価例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	間接疑問文や分詞、関係代名詞などの既習表現を用いて、 <u>正確に伝わる英語</u> で話すことができる。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>ぜひ買いたいと思うやり取り</u> をしている。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>ぜひ買いたいと思うやり取りをしようとしている</u> 。
B	これまでの既習表現を用いて、 <u>コミュニケーションに支障がなく伝わる英語</u> で話すことができる。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>どのようなものが伝わるやり取り</u> をしている。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>どのようなものが伝わるやり取りをしている</u> 。
C	コミュニケーションとして伝わる英語で話すことができない。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>どのようなものを伝えるやり取り</u> ができない。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>どのようなものを伝えるやり取りをしようとしていない</u> 。

<別案> 2 思考・判断・表現に比重を置いた評価例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	これまでの既習表現を用いて、 <u>正確に伝わる英語</u> で話すことができる。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>そのことについての情報に加えて、お勧めの理由や自分の意見などを加えたり、（ALT の名前）に質問したりして、（ALT の名前）がぜひ買いたいと思うやり取り</u> をしている。	（ALT の名前）がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのを提案し、 <u>そのことについての情報に加えて、お勧めの理由や自分の意見などを加えたり、（ALT の名前）に質問したりして、（ALT の名前）がぜひ買いたいと思うやり取りをしようとしている</u> 。

B	コミュニケーションに支障がなく伝わる英語で話すことができる。	(ALT の名前) がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのことを提案し、 <u>そのこと</u> についての情報を伝え、 <u>(ALT の名前) が買いたいと思うやり取り</u> をしている。	(ALT の名前) がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのことを提案し、 <u>そのこと</u> についての情報を伝え、 <u>(ALT の名前) が買いたいと思うやり取り</u> をしようとしている。
C	コミュニケーションとして伝わる英語で話すことができない。	(ALT の名前) がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのことを提案し、どのようなものを伝えるやり取りをしていない。	(ALT の名前) がフィリピンへの帰国に際し、日本のお土産として一つのことを提案し、どのようなものを伝えるやり取りをしようとしていない。

(2) 書くこと

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	間接疑問文や分詞、関係代名詞などの既習表現を用いて、 <u>正確に伝わる英語</u> で書くことができる。	日本のお土産として一つのことを提案し、 <u>そのこと</u> についての情報に加えて、 <u>お勧めの理由や自分の意見</u> などを加えたりして、まとまりのある文章を書いている。	日本のお土産として一つのことを提案し、 <u>そのこと</u> についての情報に加えて、 <u>お勧めの理由や自分の意見</u> などを加えたりして、まとまりのある文章を書こうとしている。
B	誤りはあるが、これまでの既習表現を用いて、コミュニケーションに支障がなく伝わる英語で書くことができる。	日本のお土産として一つのことを提案し、 <u>そのこと</u> についての情報を伝える <u>まとまりのある文章</u> を書いている。	日本のお土産として一つのことを提案し、 <u>そのこと</u> についての情報を伝える <u>まとまりのある文章</u> を書こうとしている。
C	コミュニケーションとして伝わる英語で書くことができない。	日本のお土産として一つのことを提案し、そのことについての情報を伝えるまとまりのある文章を書いていない。	日本のお土産として一つのことを提案し、そのことについての情報を伝えるまとまりのある文章を書こうとしていない。

パフォーマンステスト研究・開発チームに係るアンケート

所属名：松阪市立東部中学校

お名前：

1. パフォーマンステストの実施で、話す活動時間の増加等、日常の授業の指導内容が変わりましたか。また、児童生徒の学習への取組に変容がありましたか。具体的にお書きください。

①日常の授業の指導内容について

帯活動で Small Talk を行い、中間指導を行ったり、振り返りをしたりしながら進めることができた。

次に生かせる指導を行いながら、同じことを根気よく続けた。机間指導をしながら個別にも指導を入れるように心がけた。

②教師の指導について

できるだけ英語で授業を行った。全学年で、自身の改善したルーブリックを共有し、パフォーマンステストに取り組んだ。

③児童生徒の取組について

パフォーマンステストを目標にすることによって、積極的に英語を使おうとする姿が増えた。テストで目標を達成するためには継続的な練習が不可欠であると意識し、一生懸命取り組む様子が多くの子供の中で見られた。

2. 今年度の研究活動を通して、ルーブリックや評価において、新たに取り入れたことは何ですか。

ルーブリックをシンプルにすることで、生徒もポイントをしぼって取り組むことができたし、先生もそれに向けた指導や評価がし易くなった。

3. 今年度の取組を、次年度以降にどう活かそうと考えていますか。

パフォーマンステストを4月に年間計画に組み込み、最初の授業で生徒たちに伝える。ALT と各生徒が1対1でやり取りする活動を、授業に取り入れること。

4. 次年度のパフォーマンステスト研究・開発チームでは、どのようなことが研究テーマとして考えられますか。

評価規準の設定及びルーブリックの作成について。特に、「話すこと(やり取り)」における評価が難しいため、今後自分でも研究したいと思っています。